

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600258		
法人名	社会福祉法人洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム亀岡千代川		
所在地	京都府亀岡市千代川町小林北田13-29		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード面が悪いので、ソフト面でカバーする。常に利用者様、ご家族様の立場に立ち考え行動する。</li> <li>・残存機能の維持。階段を利用し下肢筋力の低下防止。料理、裁縫などの機能低下防止</li> <li>・地域との関係が良好</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671600258-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671600258-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年11月22日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設より12年めを迎える当該ホームは住宅街の中の一軒家として地域に根ざしたホームとなっています。散歩時には子どもたちや地域の方と声を掛け合い、野菜のお裾分けをしてもらったり、地域の方が法話を聞いたり、カラオケを歌いに来ています。また地域の方に向けての認知症サポート講座を継続的に実施し、多数の参加を得ており、認知症についての理解も深めています。理念に「利用者と共に利用者のペースに合わせて 利用者の方とも一緒に歩いて」と掲げ、職員は利用者に寄り添い、一人ひとりの思いを大切に日々ケアをしています。利用者は食事作りや後片付け、掃除等の役割を通して生き生きと生活できるよう支援し、職員も助けられながら温かい家庭的な雰囲気の中で自由に過ごされています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの玄関に独自の理念を掲げ機会あるごとに 職員間で確認しあっている	法人の理念の基、職員と話し合って作成された独自の理念が掲げられ、朝の申し送り時に唱和し声を出す事で理念に込めた思いを再確認し、日々のケアの中で実践につなげています。また理念がケアに活かされているかを月1回のミーティングで振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに参加したり、清掃活動にも参加している	地域の夏祭りでは利用者がカラオケに参加したり、小学校で行われる町の運動会ではホームの席が確保される等、自然に交流がなされています。また、地域の方の来訪があり、法話を一緒に聞いたり、カラオケを披露される方もいます。地域向けの認知症サポート講座も開催し多数の参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催したり、今後受けていただきたい団体へのアプローチもしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で情報をいただき地域貢献やサービス向上につとめている	市担当者や民生委員、消防団、地域包括支援センター職員等の参加を得て年6回開催しています。事業所の状況や行事の報告を行い、参加者から意見やアドバイスをしています。市の取り組みの紹介や今回より参加した消防団から台風の現状や避難についてを教えてもらったり、夜間の火災の避難手順などについて話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、関係をきずいている	行政への相談は法人を通して行なっていますが、運営推進会議には市の担当者も参加し、ホームの実情を知ってもらっています。市が主催する地域密着型会議に参加し、情報交換を行い市との協力関係が築けるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、行動を止めずに外に出られたときはCWも一緒に出見守る	身体拘束について法人の研修に参加した職員が資料を用い、ミーティングの中で伝達研修をしています。玄関は開錠し、外に行く際に一緒に付き添い自由に入出りが出来るよう支援しています。階段移動については家族とリスクを話し合い、職員は常に意識し、安全に配慮した対応を心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しホーム内でも伝達講習をしている		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しホーム内でも伝達講習をしている。必要ある時に活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートをとったり、プラン見直し時に希望をきいたり、面会時家族とコミュニケーションをとり意見、要望など聞き運営に反映させるよう努力している	家族が面会に来られた時は、コミュニケーションを密にとり、意見や要望を聞いています。また年に1回アンケートを実施したり、介護計画の見直し時期にも書面で意見を聞いています。外出を増やして欲しいとの意見を受け職員間で検討し、日常の散歩や買い物に出かける機会を作るなど、サービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングに所長、統括も参加し意見、提案を聴く機会あり	月1回のミーティングは法人から上司も参加し、直接意見を聞く機会を作り、職員が意見を言いやすい雰囲気となるよう配慮しています。また年に2回管理者による個人面談が行っています。職員から得られた意見や提案については話し合い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話をしっかりきき各自が向上心を持つよう勤めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加してもらい、現場でも必要な時その都度指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外共に機会あれば参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と話せる機会をできるだけ多くもつ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話を聴いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒にし、掃除を一緒にし、お茶や休憩も一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良好な関係作りをし、相互で支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者とも良い関係をつくり、又面会に来ていただけるよう雰囲気作りをしている	友人の来訪時には寛げる場所へ案内したり、時には喫茶店で過ごされるなど、再訪してもらえるような雰囲気となるように努めています。実家や馴染みの店に行ったり、家族の協力で美容院に出かける等、これまでの大切にしてきた関係継続を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	間に入り話題を広げたり、言葉の誤解が生じないようにフォローしながら楽しい雰囲気をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人となりを十分理解し希望や思いに添うよう努力している	生活歴や暮らし方の意向や思いを本人・家族から聞き、日々の関わりの中で得られた気づきや情報を記録に残し、思いや意向を把握し職員間で共有しています。把握が困難な時は家族に聞いたり、表情や様子を見ながらミーティングで本人本位に話し合い、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からしっかり話を聴きとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りをし、一人ひとりの現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見を出し合い、Dr,Nsにも助言をもらっている	本人・家族の思いや意向やアセスメントを基に、医師や看護師の意見も聞いて介護計画を作成しています。6ヶ月でモニタリングを行い、カンファレンスで検討して1年毎に見直ししています。随時の見直しや定期的な見直しの前は、再アセスメントを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にて情報の共有をし、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、本人や家族の希望に添えるよう こころがけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケが好きな方とGHでカラオケを楽しむ支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があればそれに添う	入居時にかかりつけ医の希望を聞いており、現在は全利用者が協力医の往診を受けています。協力医は24時間連絡が取れる体制にあり、2週間に1回往診があります。また週1回看護師による訪問があり、医師と情報交換をしています。専門医への受診は家族が対応し、情報の提供を行い受診の結果を家族から聞いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談しながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも連絡とりながら病院、地域連携課とも連携を取り、関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明はするが、実際重度化や終末期になったとき、その都度話し合いをする	入居時に看取りの指針に基づいて、ホームで対応出来ることや出来ないことを家族に伝え、思いや意向を聞いています。重度化や看取りの状態について医師や看護師、家族、職員とその都度話し合い、思いを再確認しています。これまでは入院となったケースが多く、今後は他施設での看取りの体験談を聞いたり、引き続き法人の研修を受講しながら取り組んでいく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、消防団、地域の方々との合同訓練もおこなっている	年2回消防署の指導の下、夜間を想定して通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。2ヶ月に1回は昼間を想定し自主訓練を繰り返して実施しています。消防団や地域の方の参加を得ています。運営推進会議では消防団から地域の情報を得ており、更に地域との協力関係が築けるよう関わっていきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時に注意しあったり、ミーティングの時に声かけや、プライバシーについて振り返る時間を時々設けている	法人の研修で個人情報や尊厳について学び、参加した職員が伝達研修を行っています。管理者は、利用者と接する時は尊厳を持って対応するように常に職員に伝えていきます。排泄介助時の大きな声での言葉かけや言葉遣いも羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけ、不適切な言葉掛けがあった場合はその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をしっかり聴いたり、選択できるような声掛けを意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お元気だった頃の好みを参考にし、その人らしいおしゃれを心がけている。自分や自分の親に置きかえ身だしなみは支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	だいたい利用者と献立を考え、一緒に準備している	献立はホームで考え、冷蔵庫の材料を見てメニューを決め、買い物は利用者と一緒にしています。食事作りは、下準備から片付けまで出来る事や得意なことを活かせるよう役割を持って関わってもらっています。職員も同じ物を一緒に食べ楽しい団欒の場を作っています。また個別の外食支援や行事でも外食を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方は水分チェックをしたり、ご飯のグラムを量ったりしかなりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけ程度になっている		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をもよおしてきたときの行動パターンを把握することにより、トイレでの排泄を心がけている	個々の排泄の回数を記録してパターンを把握し、利用者の様子や行動を見て誘導し、トイレで排泄できるように支援しています。職員は利用者の自尊心に配慮した対応を心がけ、そっと見守る支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりととり、食事での便秘予防をしたり 腹部マッサージをしたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に添えるようにしている	毎日入浴の準備をし、週2～3回の午後から夕食前までを基本に入浴してもらっています。毎日の入浴や午前中に入浴の希望にも対応しています。柚子や入浴剤を用い季節湯を楽しんでもらったり、好みのシャンプーを使いながら入浴が楽しめるよう支援しています。拒否される時は、無理強いせず時間を変えて入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方は自由に休息され、自力で居室に戻れない方は、その方の様子を見ながら居室に戻り休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、Drからの説明で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活や会話の中から張り合いや楽しみを引き出し支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望などを聞いた時は家族にも伝え家族の協力を得ながら外出支援をしている	日常的に買い物や散歩に出掛けています。桜や紅葉を見に行く季節の外出には家族も参加し、家族と買い物に行く際は駅までの送迎の支援をしています。また利用者の希望にそって喫茶店や図書館、外食、カラオケに行く等、個別の外出支援にも取り組んでいます。その他地域の行事やグループホーム協議会主催のイベントにも利用者と一緒に参加しています。	



洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい方には持ってもらい買い物支援もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望あればその都度していただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度光の入り方にも注意を払っている	玄関には生花が生けられ、クリスマスツリーや置き物、利用者が作った作品から季節感が感じられます。リビングの神棚の水を毎日変えたり、掃除や片付けを利用者が行っています。思い思いに過ごせる家庭的なほっと出来る空間作りを心がけています。加湿器を置き、温度や湿度、カーテンで採光に気をつけ、居心地よく過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを置きリビングの人気を感じながらも人と少し離れることができる場所にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で使用されていた物をもっていただけるようお話ししている	タンスやベット、鏡台、ラジオ等のこれまで使われていた愛着のある物や茶道具等の趣味の物が持ち込まれ、大切にされている家族の写真や作品が飾られています。希望にそって畳を敷いて布団で休まれる利用者もおり、これまでの生活習慣を大切に居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には両サイドに手すりを付け、安全に上がり降りできるよう配慮している		